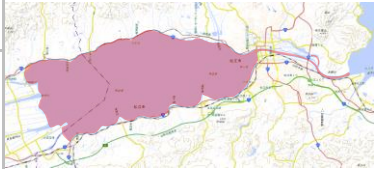


地質サイトカード

カードNo.	B-④-4	通しNo.	37	作成日	2025/4/30
サイト名	連結汽水湖の宍道湖 ^{しんじこ}				
基本情報	エリア	出雲平野・宍道湖・中海低地帯 探訪サイト			 大橋川を含む
	区分	☒ 地質・地形	☒ 生態	☒ 文化	
	利用価値	☒ 科学	☒ 教育	☒ 観光・ツアー	
	所在地	松江市、出雲市			
	アクセス				
	周辺施設	☒ トイレ ☒ 売店 ☒ 飲食店 ☒ 駐車場(台) ☒ ウォーキングコース ☒ サイクリングコース ☒ 観光施設(島根県立美術館ほか)			
	看板整備				
	留意点				位置情報
保護・保全	法規制・関連団体等	ラムサール条約登録湿地 国土交通省出雲河川事務所			
	保全メモ				
サイトの解説	みどころ	低塩分水域の形成過程			
	地質・地形	宍道湖は周囲長47km、面積79.1km²の大きさの汽水湖である。広大な面積を占めているが、非常に浅く最大水深が6.0m(平均水深4.5m)のなだらかな湖底地形をなしており、風による湖水の攪拌など気象による影響を受けやすい形状をしている。また、日本海との水位差が数cmから数10cmと小さく、さらに中海と間の大橋川は川幅が狭いため湖の周囲では古くから洪水災害を受けてきた。このような閉鎖性の強い水域であるため、汚濁物質や栄養塩類が蓄積されやすく植物プランクトン(アオコ)の異常増殖が起こることもあり、生態系に大きな影響を与えている。水環境の保全のために、国や県による水域の監視が行われるとともに、市民による自然の再生運動も活発に行われている。松江市西部の大野町から大垣町(一畑電鉄津ノ森駅から高ノ宮駅)の沖、湖底下約1mには弥生時代前期(約2000年前)の低塩分化により大発生したヤマトシジミやヌマコダキガイの貝殻密集層が見つかっている。			
	歴史・文化 生物・生態 等				
写真・図等	 				
参考文献	徳岡隆夫ほか(1997)LAGUNA, no. 4, 77-83.				